

【専門分野】

科目		単位（時間数）	年次	開講時期	担当者
老年看護学概論		1（15）	1	第2学期	非常勤講師
目 標					
高齢者の特徴を理解し、QOLを考えた看護について学ぶ					
ディプロマポリシーとの関連：DP1、DP2、DP5、DP6の達成に寄与					
回	時間	授業内容	授業方法	課題	
1	2	1. 老年期にある対象の理解 1) 自己の高齢者のイメージ 2) ライフヒストリーから高齢者の生活や価値観を知る	講義 GW	【事後】 課題学習	
2	2	2. 加齢に伴う変化の特徴と身体的・精神的・社会的機能の変化 1) 老いるとは 2) 老いを生きるとは	講義		
3	2	3. 高齢者と社会 1) 超高齢社会・多死社会での現状と高齢者の生活 2) 介護保険制度	講義	【事後】 課題学習	
4	2	4. 加齢に伴う機能障害と生活 1) ヘルスアセスメント ①身体的健康 ②生活自立度 ③心理・社会的健康 ④環境 ⑤生活史 2) 高齢者総合機能評価（CGA）	講義		
5	2	3) 身体の高齢変化とアセスメント ①皮膚 ②視聴覚 ③循環器 ④呼吸器 ⑤消化器 ⑥ホルモン ⑦泌尿生殖器 ⑧運動器	講義	【事後】 課題学習	
6	2	5. 高齢者の権利擁護 1) ステイグマ・エイジズム・権利擁護（アドボカシー） 2) 高齢者虐待 3) 身体拘束 4) 権利擁護のための制度と倫理 5) 高齢者の性	講義		
7	2	6. 高齢者の特徴と看護 1) 老年症候群 2) 老年看護の役割 3) 老年看護に役立つ理論 ①サクセスフルエイジング ②選択最適化保証理論 ③コンフォート理論 ④ストレングスモデル	講義	【事後】 課題学習	
8	1	終講試験			
授業形態		講義および演習			
評価方法 点数配分		筆記試験 70点 講義での提出物・レポート 30点 他の事項については履修規程の第5条、第6条に定めるとおりとする			
テキスト		老年看護学：医学書院			
その他		参考資料は随時配布し、参考図書は講義内で紹介する			

【専門分野】

科目		単位（時間数）	年次	開講時期	担当者	
※老年看護援助論Ⅰ		1（30）	1	第2学期	① 専任教員（26時間） ② 理学療法士（2時間） ③ 言語聴覚士（2時間）	
目 標						
高齢者の生活機能の変化をアセスメントし、健康生活を整える援助方法について学ぶ						
ディプロマポリシーとの関連：DP3、DP5、DP2、DP4の達成に寄与						
回	時間	授業内容	授業方法	担当	課題	
1	2	1. 高齢者への日常生活援助技術 1) 高齢者とのコミュニケーション	講義	①		
2	2	2) 基本動作と環境 ①ADLとIADL ②転倒予防	講義	①		
3	2	③廃用症候群の早期発見と予防 ④フレイル・サルコペニアとリハビリテーション	講義	①		
4	2	3) 生活リズム ①高齢者と生活リズム ②生活リズムのアセスメント ③その人らしい生活リズムを整えるケア	講義	①	【事前】 ワークシート	
5	2	4) 高齢者の基本的動作の体験（高齢者体験スーツ） 5) 関節可動域(ROM)の評価	演習	②		
6	2	6) 食事・食生活 ①高齢者に特徴的な変化 ②食生活のアセスメント ③食生活の支援	講義	①		
7	2	④誤嚥予防のための口腔ケア（義歯の取り扱いを含む）	演習	①	【事前】 ワークシート	
8	2	⑤摂食嚥下機能評価、嚥下機能訓練	講義 演習	③		
9	2	7) 清潔 ①清潔の意義と健康課題 ②清潔のアセスメント ③高齢者の特徴をふまえた清潔ケア	講義	①		
10	2	8) 排泄 ①高齢者の排尿・排便障害のアセスメント ②高齢者の特徴をふまえた排泄ケア	講義	①		
11	2	9) 薬物療法を受ける高齢者の看護 ①高齢者の薬物動態 ②高齢者の服薬管理のアセスメント	講義	①	【事前】 薬剤の調べ学習	
12	2	2. 高齢者のフィジカルアセスメント 1) 加齢に伴う身体機能の変化	講義	①		
13	2	2) フィジカルアセスメントの実際	演習	①		
14	2	3. 高齢者の生活・療養の場における看護	講義	①		
15	1	4. 高齢者の社会参加	講義	①		
16	1	終講試験		①		
授業形態		講義および演習				
評価方法 点数配分		筆記試験 100点 他の事項については履修規程の第5条、第6条に定めるとおりとする				
テキスト		老年看護学：医学書院 老年看護 病態・疾患論：医学書院				
その他		※この科目は実務経験のある教員による授業時間がある科目である				

【専門分野】

科目		単位（時間数）	年次	開講時期	担当者	
※老年看護援助論Ⅱ		1（15）	2	第1・2学期	① 専門看護師（4時間） ② 非常勤講師（4時間） ③ 専任教員（7時間）	
目 標						
高齢者の認知機能変化に応じた援助方法について学ぶ						
ディプロマポリシーとの関連：DP2、DP5、DP4、DP1の達成に寄与						
回	時間	授業内容			授業方法	担当 課題
1	2	1. 認知症高齢者の看護 1) 認知症のメカニズム・症状・治療 2) 認知症看護の原則			講義	①
2	2	3) 認知症高齢者の環境調整 4) 重症度別、疾患別のコミュニケーション方法 5) 認知症高齢者と家族へのケア ①ユマニチュード			講義	②
3	2	2. 認知症高齢者の理解 1) 認知症高齢者の視点から、心理的苦悩の理解 2) 認知症高齢者の残された力の発見と生活障害となる行動の対応 3) 認知症高齢者を地域で支える支援（認知症サポーター）			講義	②
4	2	3. せん妄をきたす高齢者の看護 1) せん妄のリスク要因 2) せん妄の症状 3) せん妄の予防と早期発見 4) せん妄時の看護			講義	①
5	2	4. 検査・治療を受ける認知症の看護 5. 認知症高齢者の看護の実際 1) 看護展開（状態別での関わり方について）			講義 GW	③ 【事前】 ワークシート
6	2	2) ロールプレイ・評価			演習	③ 【事前】 看護計画立案
7	2	3) 認知症高齢者の看護についての振り返り・まとめ			講義 GW	③
8	1	終講試験				③
授業形態		講義および演習				
評価方法 点数配分		筆記試験 100点 他の事項については履修規程の第5条、第6条に定めるとおりとする				
テキスト		老年看護学：医学書院 老年看護 病態・疾患論：医学書院 症状別看護過程、疾患別看護過程：医学書院				
その他		※この科目は実務経験のある教員による授業時間がある科目である				

【専門分野】

科目		単位（時間数）	年次	開講時期	担当者
※老年看護援助論Ⅲ		1（30）	2	第1・2学期	専任教員
目 標					
高齢者の特徴的な疾患を理解し、加齢に伴う身体的・精神的・社会的な変化や健康障害に合わせた援助方法について学ぶ					
ディプロマポリシーとの関連：P5、DP2、DP4の達成に寄与					
回	時間	授業内容	授業方法	課題	
1	2	1. パーキンソン病患者の看護 1) パーキンソン病の症状 2) 診断と治療	講義・GW	【事前】 パーキンソン病	
2	2	3) パーキンソン病患者の重症度(ホーン・ヤール)の分類と生活機能障害度に合わせた看護	講義・GW		
3	2	4) 老年期にあるパーキンソン病患者の強みに着目した看護の実際 ①日常生活支援(アドヒアランスを高める服薬管理)	講義・GW		
4	2	②日常生活支援(ADL・IADLを踏まえた日常生活動作の維持)	講義・GW		
5	2	③日常生活支援(病期に応じた廃用症候群予防)	講義・GW	【事前】 看護計画立案	
6	2	④日常生活支援の実際(ADL・IADLを踏まえた日常生活動作の維持)	演習	【事後】 看護計画評価	
7	2	2. 白内障の患者の看護 1) 白内障の症状 2) 治療 3) 看護	講義		
8	2	4) 白内障患者の日常生活の強みに着目した日常生活支援 (アドヒアランスを高めるための教育介入：転倒予防・点眼指導)	講義・GW		
9	2	5) 白内障の看護の実際(転倒予防・点眼指導)	演習		
10	2	3. 大腿骨頸部骨折患者の看護 1) 骨折の機序と症状 2) 検査および治療	講義・GW	【事前】 大腿骨頸部骨折・骨頭置換術	
11	2	3) 大腿骨頸部骨折患者の強みに着目した看護の実際 ①経過別看護(急性期・回復期・リハビリ期)	講義・GW		
12	2	②日常生活支援(生活様式を再構築するための脱臼予防)	講義・GW		
13	2	③日常生活支援(ADL・IADLを踏まえた転倒予防)	GW	【事前】 看護計画立案	
14	2	④日常生活支援(脱臼予防及び転倒予防)	演習	【事後】 看護計画評価	
15	1	⑤リフレクション	講義		
16	1	終講試験			
授業形態		講義および演習			
評価方法 点数配分		筆記試験 80点 課題提出点 20点 他の事項については履修規程の第5条、第6条に定めるとおりとする			
テキスト		老年看護学:医学書院 老年看護病態・疾患論：医学書院 成人看護学（7）脳・神経：医学書院 成人看護学（10）運動器：医学書院 成人看護学（13）眼：医学書院 症状別看護過程、疾患別看護過程：医学書院			
その他		※この科目は実務経験のある教員による授業時間がある科目である			

【専門分野】